

ツカナクナル。ドウカシテ、何カイ、區別點が見ツカリハシナイカト色々ヤツテ見タガ、無理ニ云ヘバ、ゐノ種子ハ下部（即チ胎坐ニツク部分）ガヤ、鈍形ヲナスガ、ひめゐノ種子ハ、下部ガ凸形ヲナス、ト云ヘル位ノモノデ、全く同じデアル。コレヲ見分ケル事ハ、ゐト *J. effusus* トヲ區別スルヨリモ一層ムヅカシイ事デ、私ハ遂ニサジヲ投ゲテシマツタ。ムシロ、ひめゐハ（マタたまゐモ）單ナルゐノ form ニ過ギナイノデハナイドラウカ？ 諸賢ノ御教示ヲ乞フノミデアル。

我國ノ特産デ、樺太、千島、北海道（渡島、石狩一大雪山、日高一アポイ山）本州（恐山、八甲田山、磐梯山、駒ヶ岳—越後、伊吹山、戸隠山、妙高山、御嶽山）、四國（コーツ山—阿波）ニ産スル。（コノ項續ク）

おかめざさ屬ノ葉ノ「アッセンビルド」ニ就テ

大 木 麒 一

Kiiechi OHKI: On the Spodograms of the Leaves of the
Genus *Shibataea* MAKINO

I. 緒 言

著者ハ昭和六年、植物研究雑誌第七卷第 199—203 頁ニやだけ *Pseudosasa japonica* MAKINO ノ葉ノアッセンビルド（灰像）ノ概要ヲ記述シタガ今度ハおかめざさ屬ノ葉ノアッセンビルドヲ記シタイト思フ。

コノ屬ニハ本邦特産ノおかめざさと支那ニ産スルとうおかめざさノ二種ガアル。

とうおかめざさは理學士御江久夫氏ガ支那ノ浙江省デ初メテ發見採集セラレタモノデ、中井先生ハソレニ *Shibataea chinensis* NAKAI とうおかめざさナル新シイ名稱ヲ附ケテ本年六月、本誌第九卷第 85 頁デ公表サレタ。

とうおかめざさは葉ノ裏面ト葉鞘ノ肩ニ毛が見エナイカラ、ソレヲ有スルおかめざさと容易ニ區別スルコトガ出來ル。著者ハコノ二種ノ葉ノアッセンビルドニ現ハレタ性質ヲ研究シテソノ相違ヲ探究シヨウト欲スルモノデアル。

II. 實 驗 ノ 方 法

葉ヲ燒イテ得タ白色ノ灰ヲ材料トシテ其「プレパラート」ヲツクル方法並ニ

其「プレパレート」ヲ顯微鏡下デ觀察スルニ要スル種々ノ注意事項ナドハ前記著者ノ報文ト著者ガ數回書イタ其他ノ報文ニ明カダカラココデハソレニ關スル記事ヲ省略スル。

III. 記 載

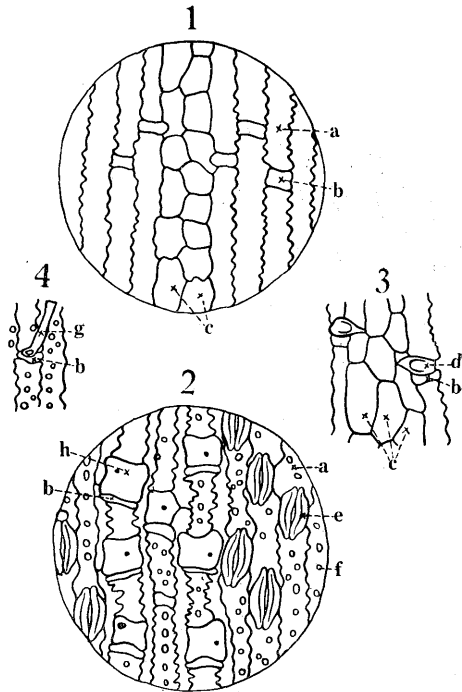
A) 葉ノ上面ヲ形成シテキル表皮細胞ノ形態。

葉ノ上面ヲ形成シテキル表皮細胞ノ大部分ハ長方形細胞(挿圖 a) デソレラハ主脈ノ走ツテキル方向ニ平行的ノ二長邊ト、ソレトホバ直角ノ方向ニ二短邊トヲ有シ、長サ凡ソ $24.4-74.7\mu$ 、幅凡ソ $8.3-16.6\mu$ 、其二長邊ダケガ著シイ波狀ヲ呈スル。

二個ノ長方形細胞ノ間ニハ、其短邊ト接シテ介在スル一個ノ小長方形細胞ガアルカ又ハ更ニ其小長方形細胞ト接シターツノ石英細胞ガアル。コノ小長方形細胞(挿圖 b) ハ長サ凡ソ $1.7-8.3\mu$ 、幅凡ソ $8.3-16.6\mu$ 、其細胞壁ハ平滑デアアル。石英細胞(挿圖 i) ハヤ、三角形又ハ長方形デ長サ凡ソ $3.3-4.9\mu$ 、幅凡ソ $8.3-13.3\mu$ 、其數ハ僅少デアリ又其細胞壁ハ平滑デアアル。

以上述ベタ三種ノ細胞即チ長方形細胞、小長方形細胞並ニ石英細胞ハ多數集ツテ平行的ノ數

條ヲナス。其各條ノ間ニ多クノ細胞(關節細胞ト稱スル)カラ形成サレタ特殊ノ細胞列即チ關節細胞條ト云ハレルモノガアル。其各細胞(挿圖 e) ハヤ、長方形デ其細胞壁ハ波狀ヲナスカ又ハ平滑デアリ、且ツ其長邊ハ主脈ト平行的ナルモ



第 1 圖 おかめざさ *Shibataea kumasaea*
NAKAI

1. 葉ノ全形ノ殆ンド中程ニ於ケル上面ノ表皮ヲ、其正面ヨリ見タルモノ。
2. 同裏面ノ表皮ヲ、其正面ヨリ見タルモノ。
3. 同上面ニ於テ、刺狀細胞ヲ有スル部分ヲ見タルモノ。
4. 同裏面ニ於テ、屈折毛ヲ有スル部分ヲ見タルモノ。

a. 長方形細胞； b. 小長方形細胞； c. 關節細胞； d. 刺狀細胞； e. 氣孔； f. 乳頭狀突起； g. 屈折毛； h. 小葉脈上ノ表皮ニアル石英細胞。
ca. $\times 180$.

其他ノ二邊即チ短邊ハ主脈トヤ、直角的ノ方向ヲトツテキル。一ツノ關節細胞條ヲ形成スル細胞列ノ數ハ主脈附近ヨリ葉緣ニ至ル各部位デ多少ノ差アルモ多

クハ 2-5, 若シ一關節細胞條ガ三列ノ細胞ヨリ成ルトキニハ其中央列ニアル細胞ノ長サハ凡ソ $11.6-24.9\mu$, 幅凡ソ $2.5-16.6\mu$ デアル。

刺狀細胞ハホゞ橢圓形デ一端ハ圓味ガアルモ他端ハ尖ツテ突出シ、長サ凡ソ $11.6-24.9\mu$, 幅凡ソ $8.3-13.3\mu$, 之ヲ其側面ヨリ見レバ嘴狀ヲナシテ葉面上ニ僅ニ突出シタ剛毛ノ一種デ、其數ハ少イ。

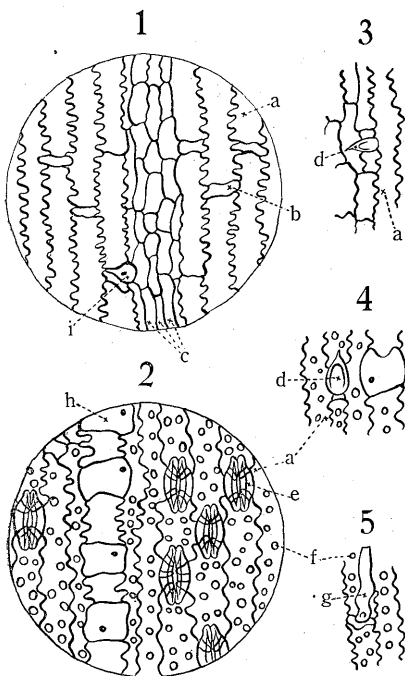
氣孔ハ始メ見出サレザルカ又ハ極メテマレニ見出サレ、ホゞ橢圓形デ長サ凡ソ $19.9-21.6\mu$, 其閉鎖細胞ノ外壁ニ接シタ指狀突起ガナイ。毛 (Ordinary hair) ト屈折毛 (Geniculate hair) ハ見出サレナイ。

小葉脈上ニ位スル表皮中ニハ特ニ多量ノ珪酸ヲ含有スル石英細胞ガアル。ソレハホゞ長方形デ長サ凡ソ $1.6-14.9\mu$, 幅凡ソ $8.3-19.9\mu$, 多クハ一列ヲナシテ葉脈ト平行的ニ排列シ、同列ニアル各石英細胞ノヘダカリハ割合ニ長イ。

B.) 葉ノ裏面ヲ形成シテキル表皮細胞形態。

葉ノ裏面ヲ形成スル表皮細胞ハ其上面ノ表皮細胞ニホゞ類似シタ形態ヲ有スルモ次ノ諸點ニ於テ多少ノ相違ガアル。

同化組織上ノ表皮中ニ關節細胞條ナク、又小長方形細胞ト接シタ石英



第2圖 とうおかめざさ *Shibataea chinensis* NAKAI

1. 葉ノ全長ノ殆ンド中程ニ於ケル上面ノ表皮ヲ、其正面ヨリ見タルモノ。
 2. 同裏面ノ表皮ヲ其正面ヨリ見タルモノ。
 3. 同上面ニ於テ刺狀細胞ヲ有スル部分ヲ見タルモノ。
 4. 同裏面ニ於テ刺狀細胞ヲ有スル部分ヲ見タルモノ。
 5. 同裏面ニ於テ屈折毛ヲ有スル部分ヲ見タルモノ。
- a. 長方形細胞; b. 小長方形細胞; c. 關節細胞; d. 刺狀細胞; e. 氣孔; f. 乳頭狀突起; g. 屈折毛; h. 小葉脈上ニ位スル表皮ニアル石英細胞; i. 同化組織上ニアル石英細胞。 ca. $\times 180$.

細胞モ見出サレナイ。

刺狀細胞ハ長サ凡ソ $16.6-33.2\mu$, 幅凡ソ $8.3-14.9\mu$ ニシテ其形態ハ上面ノ表皮中ニアルモノニ類似シ、其數ハ比較的ニ多數ナルカ又ハ少數デアル。

氣孔ハホゞ橢圓形デ長サ凡ソ $19.9-24.9\mu$, 其數極メテ多ク、何レモ葉脈上ノ兩側ニ於ケル表皮中ニ於テ多クハ2-3列ヲナシテ葉脈ト平行的ニ排列スル。其各列ニアル氣孔ハ何レモ長方形細胞ノ長サダケノ間隔ガアルノデ小長方形細胞ノ位置ニ存在スルワケデアル。氣孔ノ兩側ニアル各保護細胞ノ外壁ニ接シテ斜ニ氣孔ノ中央ニ向ツテ立ツタ數個ノ指狀突起ガアル。

毛 (Ordinary hair) ハ殆ンド見エナイカ又ハ割合ニ多イ。屈折毛ハ2細胞カラ成リ、極メテ少數デ、其細胞壁ハ平滑デアル。

乳頭狀突起ハ長方形細胞並ニ小長方形細胞ノ外壁ニ數個ヅツ見出サレル。コノ突起ハ葉ノ裏面ノ表皮ニ限ツテ存在スル特殊ノモノデアル。

小葉脈上ノ表皮中ニハ特ニ多量ノ珪酸ヲ含有スル若干ノ石英細胞ガアル。ソレハホゞ長方形デ長サ凡ソ $33-21.6\mu$, 幅凡ソ $8.3-26.6\mu$, 多クハ1-3又ハソレ以上ノ列ヲナシテ葉脈ト平行的ニ排列シ、其各列ノ石英細胞ハ何レモ少許ノ間隔即チ $0.8-152.7\mu$ 又ハソレ以上ノヘダタリヲ以テ排列シテキル。

以上ノ記載ヨリシテおかめざさとトとうおかめざさを鑑別スルニ必要ナル次ノヤウナ檢索表ヲ掲ゲル。

IV. 檢 索 表

關節細胞條ヲ形成スル細胞列ノ數ハ多クハ2-4; 葉ノ上面ニ於テ小葉脈上ノ表皮中ニアル石英細胞ハホゞ長方形デ長サ凡ソ $8.3-14.9\mu$, 幅凡ソ 19.9 ; 葉ノ裏面ニ刺狀細胞ト毛ガ割合ニ多イ

…………… おかめざさ *Shibataea Kumasaca*

關節細胞條ヲ形成スル細胞列ノ數ハ多クハ2-4又ハソレ以上; 葉ノ上面ニ於テ小葉脈上ノ表皮中ニアル石英細胞ハホゞ長方形デ長サ凡ソ 1.6μ , 幅凡ソ 8.3μ ; 葉ノ裏面ニ刺狀細胞少ク且ツ毛ガ見エナイ

…………… とうおかめざさ *Shib. chinensis*

コノ稿ヲ了ルニ際シ、先年、著者ニ研究材料トシテとうおかめざさノ標品ヲ贈與サレタ理學士御江久夫氏ニ對シ感謝ノ意ヲ表スル。(完)